

シンポジウム報告要旨（平成23年3月1日）

生態系保全活動と地域農業との共存

ー北海道根釧地域の事例からー

基調講演 原 剛氏〔農林水産政策研究所客員
研究員（早稲田環境塾塾長）〕

第一報告 杉戸 克裕（農林水産政策研究所主
任研究官）

第二報告 田中 淳志（農林水産政策研究所研
究員）

豊かな環境を維持しつつ、持続可能な農業を営むことが、21世紀日本農業の健全な発展にとってますます重要となっています。本シンポジウムはこうした問題意識を背景に、北海道根釧地域の事例を取り上げつつ、生態系保全活動と地域農業との共存を基本的テーマとして開催しました。

北海道根釧地域では、絶滅危惧種であるシマフクロウの保全のために、地元有志によって設立された「虹別コロカムイの会」を中心として、行政、農漁業者等の協力も得ながら、活発な取組が行われています。本シンポジウムはこうした活動に着目したものです。

本シンポジウムには自ら環境問題に取り組んでいる人や、農業生産、食品安全等に関心を持つ人等の多彩な顔ぶれの参加があり、また、虹別コロカムイの会の館会長および鳴川副会長が北海道から急遽かけつけていただくなど、開始前から会場は熱気あるものとなりました。

基調講演では原剛早稲田環境塾塾長が『シマフクロウの森から共生の大地へー環境が「農・林・漁」を繋ぐー』というテーマで話しをされました。

水田を例にとりつつ、日本での農業と環境の深い関係について話された後、虹別コロカムイの会の活動の特色についてスライドを用いた説明がありました。

虹別コロカムイの会は、1994年に、シマフクロウの生息に必要な河畔林の回復のために有志が樹木の植替えを行うという事業から始まりました。その後、「村の守り神」（シマフクロウ）に戻って欲しいという願いで、流

域全体の住民を巻き込んだ活動へと発展し、現在では植樹祭をはじめとした多くの取組が行われています。同会の活動は、篤志家、企業等の寄付金等で支えられており、行政からの補助金はない地域住民の自発的事業として発展しています。

続いて、杉戸克裕主任研究官から、「住民参加型の生態系保全活動と大規模農業との連携による地域活性化に向けた課題」というテーマでの報告がありました。同報告では、生態系保全に関する酪農経営者の対応について、個別農家の調査結果に基づき、農家経営の観点を含めた分析結果が紹介されました。また、こうした分析結果等を踏まえつつ、今後、シマフクロウをシンボルとして農村活性化を図ることの重要性が指摘されました。

最後に、田中淳志研究員から、「西別川流域における河畔林造成活動を通じたシマフクロウ保全活動」というテーマでの報告が行われました。同報告では、シマフクロウ保全には河畔林の回復が極めて重要であるという観点から、河畔林の回復についての現地での取組の経緯、状況等についての詳細な報告が行われました。さらに、今後の河畔林造成活動の課題ないし解決すべき問題点についての提示が行われました。

以上の3人の講演・報告の後で、せっかくの機会でもあり、虹別コロカムイの会の館会長にお話しをいただきました。お話しの中で、同会の活動を支えていただいている人に対する謝意があらためて示されるとともに、同会の設立の経緯や活動ぶりについてユーモアを交えた紹介がありました。また、植樹活動については、100周年を迎えるまで継続して実施していきたいとの抱負が語られました。

その後、参加者からの質疑・応答へと移行し、環境運動の実践のあり方等について、活発で、内容的にも具体的な意見交換が行われました。

本シンポジウムが、生態系保存と地域農業の共存という今後とも尽きることのない課題への取組に向けて、何らかのヒントまたは参考となることを願っているところです。

（文責：河原昌一郎）